

## 第 383 回 昭和の森自然観察会

### 昭和の森をぐるっと一回り

鶴見 治 (茂原市)

日 時：2024年5月12日(日) 10:00~12:00 天候 曇り一時雨  
参加者数：18名(大人15名、子ども3名)、参加指導員8名、事務所1名  
担当指導員：伊藤、井上(隆)、鶴見

雨が心配されるような天気の中で、自然観察会が始まりました。始めに、井上さんから、第2駐車場にはかつて縄文から平安時代まで多くの人が住んでいた荻生道遺跡があり、交通の要所であったことについて話がありました。参加者の皆さんは身近な場所に遺跡があり新鮮な驚きがあったようです。また発掘した後はその状態は保って駐車場の下に埋められていることにも「へーっ」という声がありました。

サンプスギの林の中では、サンプスギの溝腐れはチャアナタケモドキが原因で病気の名前は非赤枯性溝腐病であること、病原は枯れ枝の跡から侵入すること、この病気はサワラやコウヤマキにも見られることなどを鶴見から話をしました。また木は真っ直ぐ育つよりねじれながら成長した方が強くなることも加えました。

続いて湿地に降り、谷津田の観察です。谷津田の環境を守るためのビオトープの活動に尽力されている武田さんから、谷津田の生き物の多様性が図られていて、今年は461もの二ホンアカガエルの卵塊が見つかったことなどが紹介され、人手が入ることで自然が回復していることを改めて実感しました。

市町村の森では、ダイオウショウの長い針葉を観察し、枝先には来年実がなる球果を見つけました。また伊藤さんからカシワの木の前では、カシワの葉で包む栢餅の文化圏とカシワの葉の代わりにサルトリオバラの葉で餅を挟む文化圏が東(カシワ)と西(サルトリイバラ)で別れるなどの話があり、ここにも日本の文化の地域性を見た感じがします。

今回は、担当指導員による解説を少なくした分、担当指導員以外の指導員が参加者との歩きながらの会話の中で、植物の説明をしていただきました。感謝です。終了間際に伊藤さんからダイオウショウの「松ぼっくり」が抽選で2名の方にプレゼントされました。

観察会の最終盤、さっとにわか雨がりましたが、無事終了しました。

参加者の感想として、ヘビイチゴがまずかった、サンプスギの木でねじれが見られたのが良かった、人が自然に手を加えたことに対して、アカガエルが戻ってきたことで自然が答えてくれた等の感想が聞かれました。指導員の感想では、違う指導員の参加で勉強になった、田んぼビオトープを行っている方から直接話が聞けて良かった、下見をした時と今回とは大きく違うことを実感した等がありました。



荻生道遺跡の看板の前で話を聞く



サルトリイバラとカシワの葉の比較



なんとなく参加者が広がり、思い思いの散策